

大不況下の雇用の未来を考える

- 雇用創造こそ企業・経営者の社会的責任、社会的使命(mission ミッション) -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

世界大恐慌を思い起こさせるこの度の世界的規模での大不況の下で最も懸念されるのは、失業による人間の尊厳の毀損きそんの増大と、社会不安の増大である。

そこで、大不況下の雇用のあるべき姿、雇用の未来を考えることは、企業・経営者の社会的責務であると考えられる。

2. 雇用創造こそ企業・経営者の社会的責任、社会的使命(mission ミッション)

(1)世界においては世界同時株安と対ドル自国通貨安、日本においては、株価大暴落と円の超独歩高度。消費の極端な冷え込みのため企業業績、つまり、売上、経営利益ともに対前年同期比で大幅割れ、その結果、雇用調整以外に倒産を避ける道はないという企業が続出。失業率が上昇する可能性が極めて高いと言える。

失業は長期間に及べば、人間の尊厳をも毀損きそんし、また、ホームレスや犯罪の増加など社会不安を増大させる原因ともなる。

では、どうしたらよいかを考えたい。

(2)現時の大不況下で雇用のあるべき姿・雇用の未来を考える上で、まず第一に認識すべきことは、雇用の創出は企業・経営者の社会的責任、社会的使命(mission ミッション)であるということだ。

(3)企業・経営者は、雇用の創出を自らの社会的責任の第一と考えることが求められる。業績が悪化することが判明してきたら、その事業から撤退することは、「企業は原則倒産」のことば通り、やむを得ない場合があるにしても、撤退する事業に代わる事業を開発すること、つまり「金の落ちている所」を捜しまわることが求められる。そうすることによって、自らの企業から失業者を1名も出さないこと、できれば、他の企業から出た失業者を自らの企業で吸収することが求められる。そのようなことはできっこないと最初からあきらめないで、企業としての社会的責任を果たすため、経営者としての社会的使命(mission、ミッション)を果たすためと、文字通り「一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい)」熱心に魅力あふれる「雇用創造」に全社一丸となって励むべきである。

(4)新しい魅力あふれる雇用創造は、創業と同じだ。初心に返り、一からすべてをやり直すつもりで、経営トップが企業創業の初心を振り返りながら、企業存続と企業としての社会的使命を果たすために、全社員とビジネスパートナー、地域社会の協力を仰ぎながら新規事業を立ち上げ、魅力あふれる雇用創出に励む。地域を挙げてその地域の企業のすべてが雇用創出の取り組みをすれば、必ずその地域は大不況の下でも陥没することなく生き残ることができる。

(5)日本国中の企業が、新規事業を通じての魅力ある新しい雇用創造に取り組めば、たとえ世界が大不況であろうと、日本国は活性化すると確信する。

このような企業や地域、国が増えれば増えるほど、世界は大不況から脱却する時期が早まり、人々の生活の安定と社会の持続可能性が高まると確信する。

3. おわりに

(1)経済同友会や経団連・経営者協会、商工会議所などの経済団体は、全組織を挙げて、日本国内および海外の会員企業すべてに、「雇用創造」こそ企業・経営者の社会的責任、社会的使命(mission、ミッション)であることを訴え、大不況下の国民運動とすること、一社でも多くの会員企業に雇用創造を呼びかけるべきだ。

(2)日本国政府は、日本国内から1名の失業者も出さないことを政策目標として掲げるべきだ。都道府県・市町村は、我が自治体から1名の失業者も出さないことを政策目標として掲げるべきだ。

そのために政府や自治体は、雇用創造こそがこの大不況を乗り切る最大の対策の一つであると考え、企業・経営者の行動を側面支援すべきだ。

(3)「雇用創造こそ企業・経営者の社会的責任、社会的使命(mission、ミッション)である」を、大不況を乗り切るための国民運動とすることを提言したい。

企業・経営者の力量が今ほど問われる時期はない。力を合わせ、励まし合いながらがんばろうではないか。

以上

- 2009年1月5日記 -

- 2009年1月7日追記 -